

2024年11月13日

2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料



Microwave **Chemical**

**Make Wave,
Make World.**

世界が知らない世界をつくれ

アジェンダ

1. エグゼクティブ・サマリー
2. 第2四半期業績・経営指標ハイライト
3. 2025年3月期成長戦略及び第2四半期公表案件振り返り

エグゼクティブ・サマリー

第2四半期業績	<ul style="list-style-type: none">• 売上高325百万円（前年同四半期対比+36.3%）• 通期売上高計画（1,710百万円）に対する進捗率は19%であるが、収益が計上される共同開発の完了時期は今期も下半期に偏重する傾向にあり、通期計画に変更なし• 契約済ベースでの進捗率は79%（1,344百万円）
KPI	<ul style="list-style-type: none">• 新規契約獲得数：今期計画29件に対して11件の契約を獲得（進捗率38%）• 契約総数：今期計画61件に対して、43件が契約済（進捗率70%）、うち18件が納品済
案件ハイライト	<ul style="list-style-type: none">• グリーン領域の中で注力する鉱山プロセス事業において下記案件を発表：<ul style="list-style-type: none">– 核融合炉向けベリリウム製造実証におけるパイロット反応器の設計・製作を受注（MiRESSO）– 鉱石製錬用回転炉床炉の設計及び製造に関する戦略的提携を実施（中外炉工業）

アジェンダ

1. エグゼクティブ・サマリー
2. 第2四半期業績・経営指標ハイライト
3. 2025年3月期成長戦略及び第2四半期公表案件振り返り



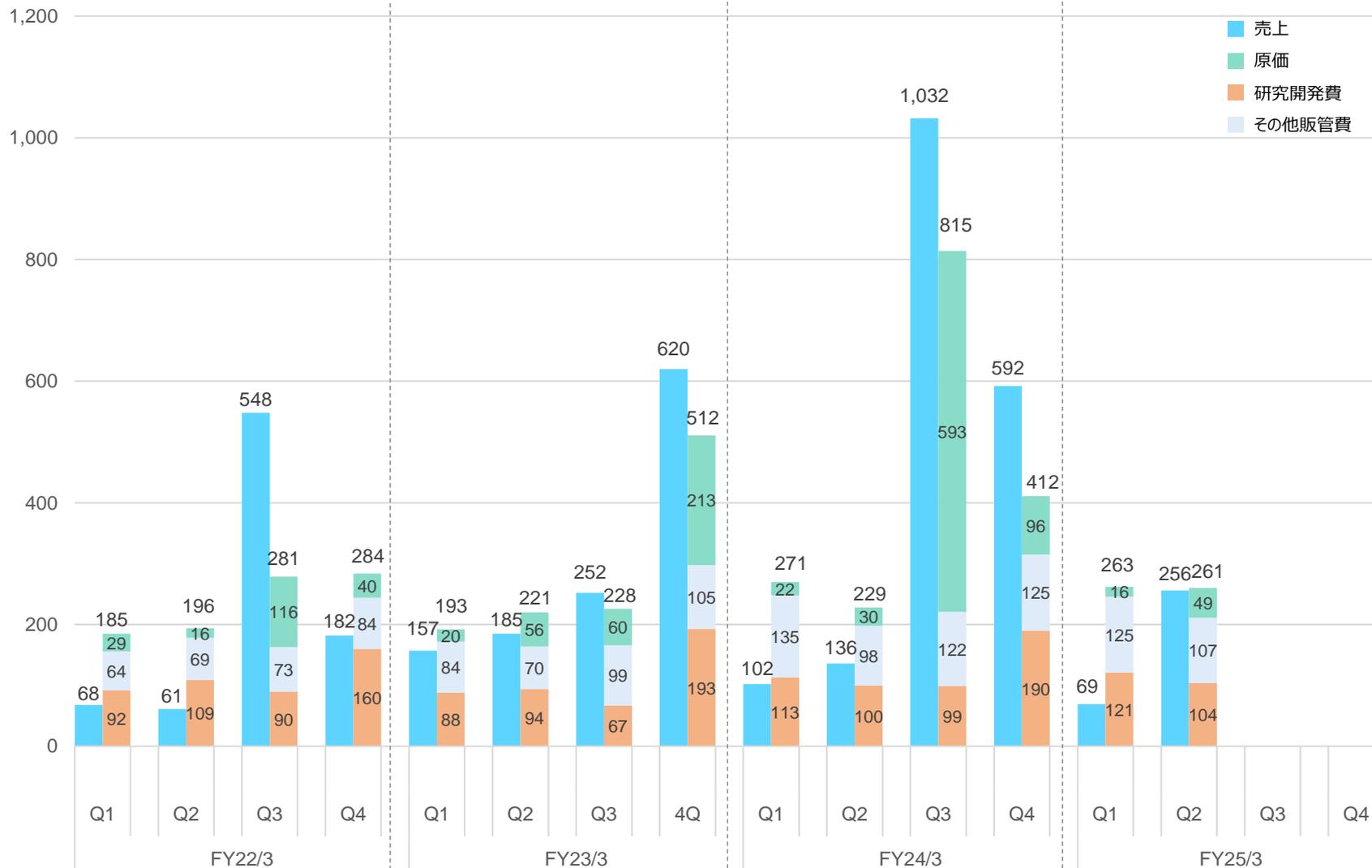
経営成績 25年3月期 第2四半期累計

- 25/3期通期計画は販管費をコントロールすることで営業黒字を計画
- Q2累計売上高は通期計画対比19%だが、契約済ベースでは1,344百万円（79%）の進捗（後述）

(百万円)	FY24/3 Q2累計	FY25/3 Q2累計	前年同期比		FY25/3 通期計画	計画対比 %
			差額	%		
売上高	238	325	86	36.3%	1,710	19.0%
Phase 1	148	38	(110)	(74.2)%	490	7.8%
Phase 2	90	285	195	217.1%	1,201	23.8%
Phase 3	-	-	-	-	15	0.0%
Phase 4	-	0	0	-	-	-
その他	-	0	0	-	3	12.7%
売上総利益	185	259	73	39.8%	1,021	25.4%
対売上高比	77.6%	79.6%	2.0pt	-	59.7%	-
営業損益	(262)	(199)	62	-	48	-
対売上高比	-	-	-	-	2.8%	-
経常損益	(263)	(203)	60	-	40	-
税引前純損益	(284)	(203)	81	-	40	-
税引後純損益	(288)	(204)	84	-	37	-

四半期経営成績推移 (22/3期Q1-25/3期Q2)

(百万円)

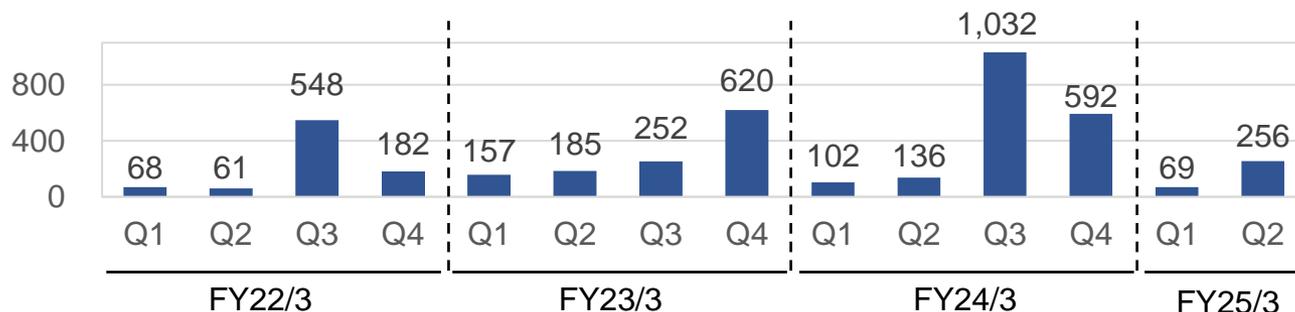


業績の季節的変動・収益認識について

<業績の季節的変動について>

当社の主要顧客である化学企業においては、新年度直前の3月までに研究開発予算の獲得が行われるため、当社との共同開発は第1四半期または第2四半期に開始することが多くなります。その結果、**当社の収益が計上される共同開発の完了時期が下半期に偏重**する傾向にあります。また、大型案件の完了時期による影響があります。これに対して販売費及び一般管理費は、その大部分が固定費であることから、利益の割合も下期に偏重する傾向にあり、投資家の判断に影響を及ぼす可能性があります。

各四半期会計期間の売上高 (百万円)



<収益の計上基準>

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。なお、約束された対価は履行義務の充足時点から概ね1ヶ月以内で支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

① 共同開発契約

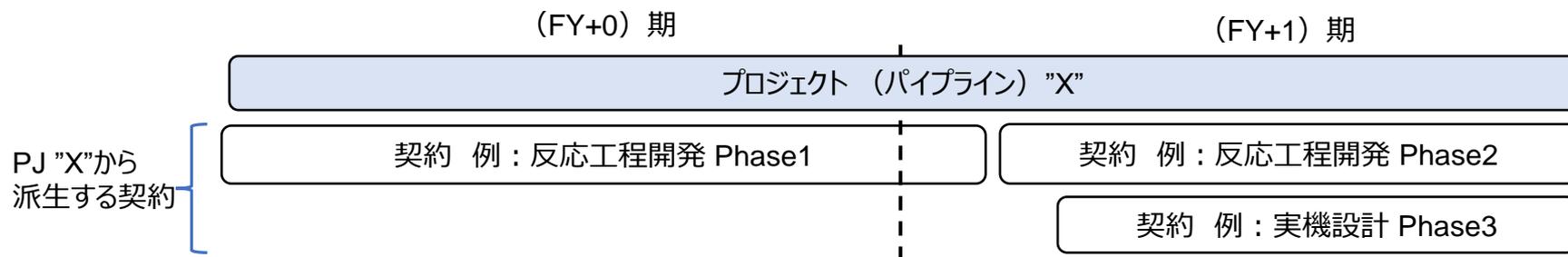
共同開発契約においては、開発テーマに関する報告書・サンプル等を提出し対価を得ております。このような契約においては、**顧客による報告書・サンプル等の検収が完了した時点で収益を認識**しております。

② ライセンス契約

ライセンス契約においては、顧客に対して当社の知的財産の実施許諾を行い、その対価として契約一時金、ランニングロイヤリティを得ております。契約一時金は、知的財産の実施許諾する時点で収益を認識しております。ランニングロイヤリティは、実施許諾先の企業の売上高に基づいて生じるものであり、実施許諾先の企業において製品が販売された時点で収益を認識しております。

経営指標について

1. 当社の事業を捉える為の重要な経営指標は、①新規契約獲得数、②契約総数、③Phase別売上高である。
2. ①新規契約獲得数と②契約総数における「契約」はプロジェクトを遂行するため顧客と個別に締結し、ソリューション提供のフェーズや形態に応じて、一つのプロジェクトより複数締結することもある（以下参照）。
3. ③Phase別売上高は、契約のフェーズ進捗について、全体的な分布とステージアップの進捗を把握するための情報であり、当社の成長を捉えるための指標となる。
4. 契約は当社収益を主に構成するものであり、当期中に検収を完了し収益が計上される「契約」を経営情報として開示している。



2025年3月期第2四半期 経営指標ハイライト

1 新規契約獲得数

- 今期計画29件に対して、11件の契約を獲得（進捗率38%、1Qより6件積み増し）

2 契約総数

- 今期計画61件に対して、43件が契約済（進捗率70%、1Qより16件積み増し）、うち18件が納品済（1Qより13件積み増し）

3 Phase別売上高（契約済ベース）

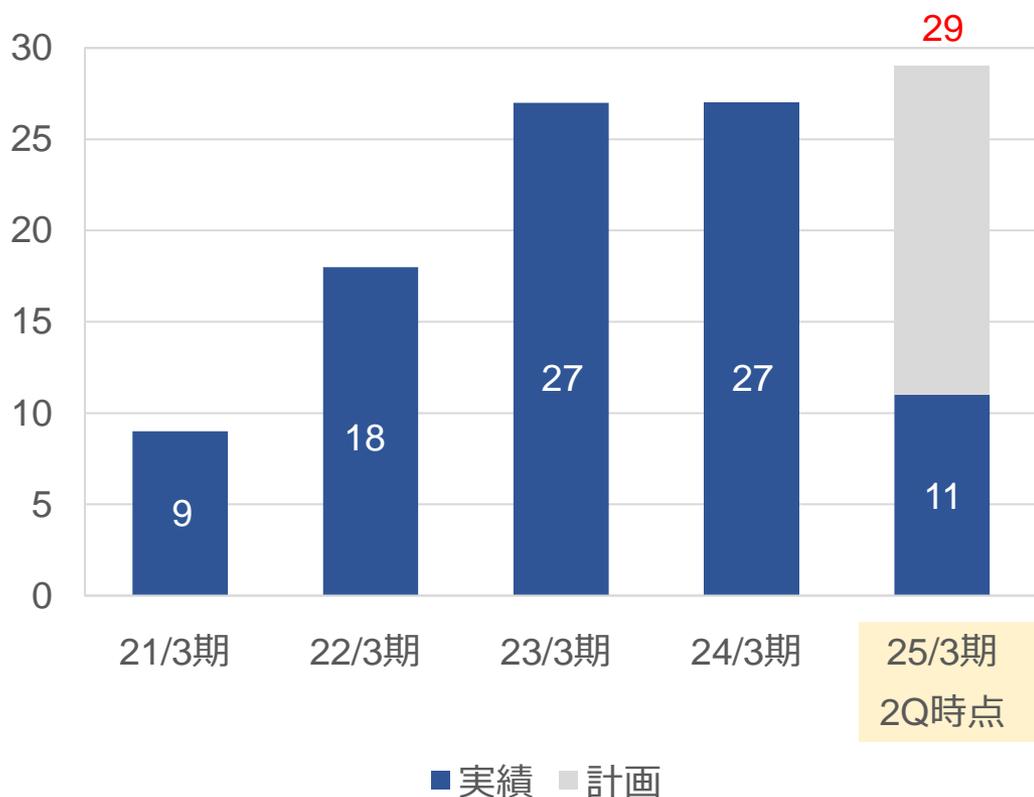
- 今期売上計画1,710百万円に対して、契約済ベースでは1,344百万円（79%）の進捗（1Qより465百万円積み増し）

経営指標① 新規契約獲得数

- 通期計画に対する進捗率は38%。1Qより6件積み増し

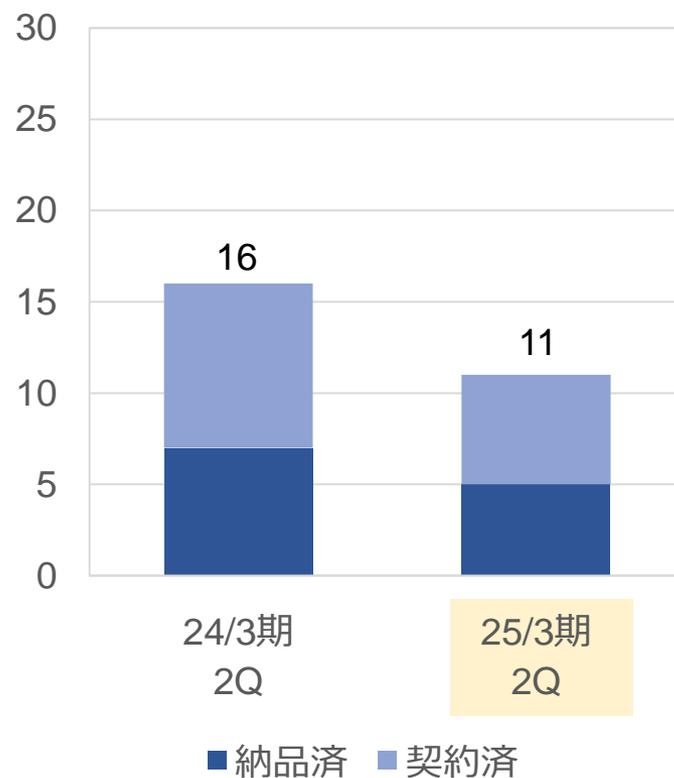
新規契約獲得数：推移

(単位：件)



前年同期比

(単位：件)

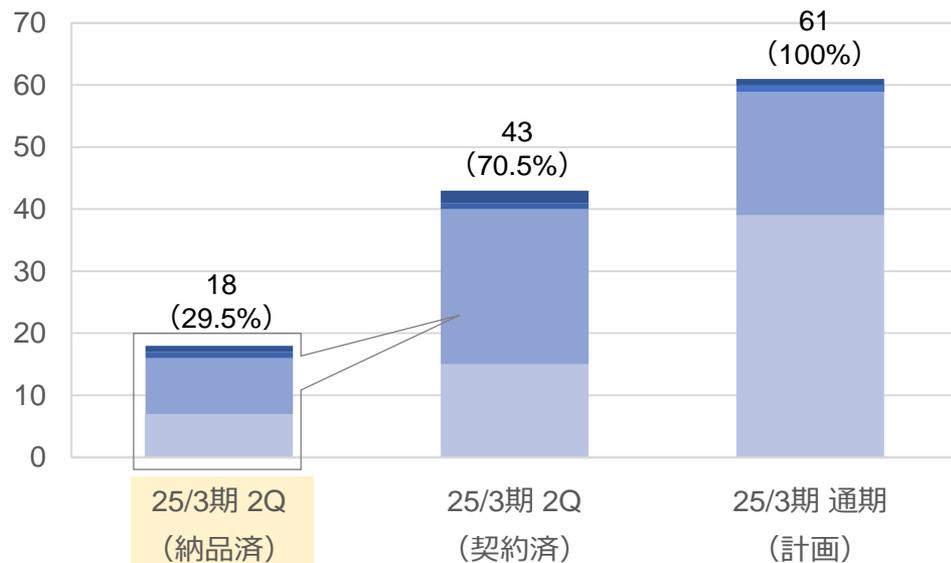


経営指標② 契約総数

- 契約済ベースの通期計画に対する進捗率は70%。1Qより16件積み増し

通期計画に対する進捗

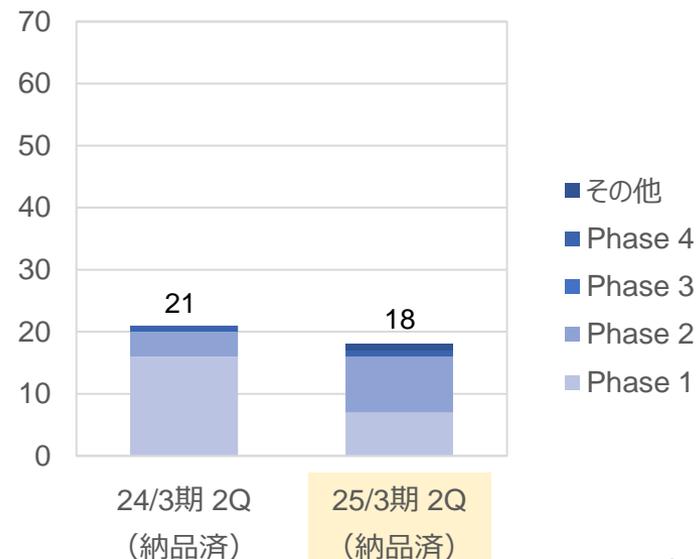
(累計、単位：件)



Phase 1	7	15	39
Phase 2	9	25	20
Phase 3	0	0	1
Phase 4	1	1	0
その他	1	2	1
合計	18	43	61

前年同期比

(累計、単位：件)



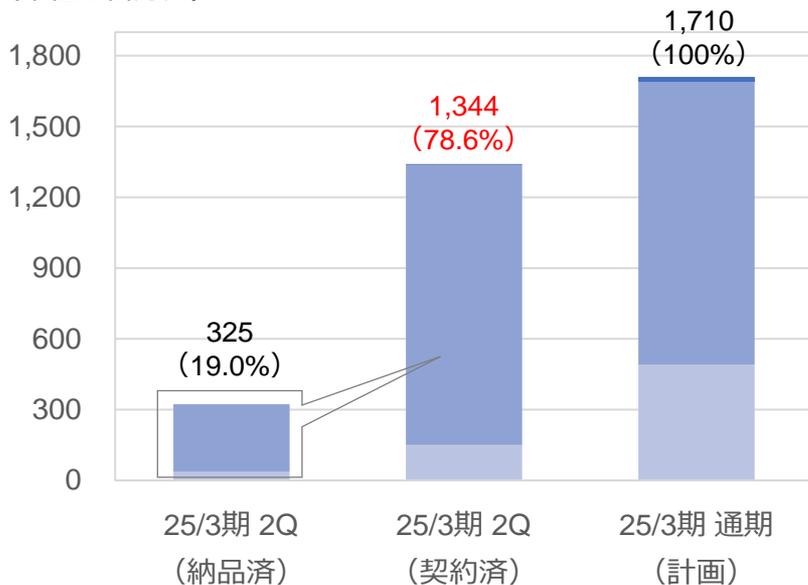
	(差分)		
	16	7	(9)
	4	9	5
	0	0	0
	1	1	0
	0	1	1
	21	18	(3)

経営指標③ Phase別売上高

- 契約済ベースの計画に対する進捗は79%。1Qより465百万円積み増し

25/3期 2Q

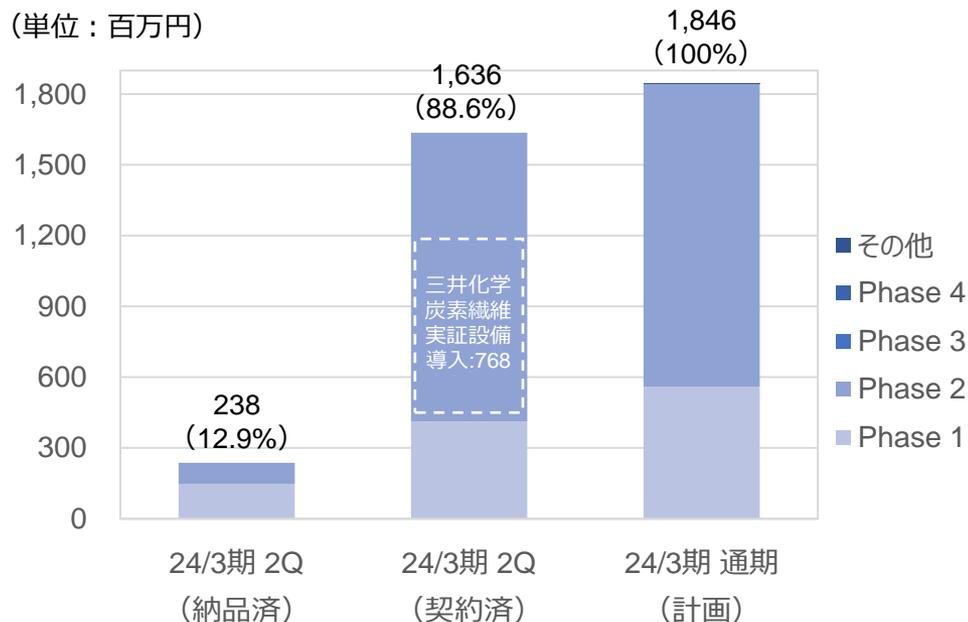
(単位：百万円)



Phase 1	38	149	490
Phase 2	285	1,189	1,201
Phase 3	0	0	15
Phase 4	0	0	0
その他	0	3	3
合計	325	1,344	1,710

(参考) 24/3期 2Q

(単位：百万円)



	148	412	559
	90	1,224	1,284
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	3
合計	238	1,636	1,846

アジェンダ

1. エグゼクティブ・サマリー
2. 第2四半期業績・経営指標ハイライト
3. 2025年3月期成長戦略及び第2四半期公表案件振り返り

- 24/3期と同様に、注力する既存事業領域への先行投資の継続に加え、更なる成長に向けた新規標準化事業の仮説検証を進行

ビジネスモデル



事業領域

契約数



単価



ステージアップ



横展開

1 質の高い新規契約の獲得

単に契約数を追いかけるのではなく、**社会実装**につながる質の高い大型案件にフォーカス。

2 技術プラットフォーム強化によるステージアップ

技術優位性と事業ニーズがある分野にフォーカスした技術プラットフォームの強化による**ステージアップ確度**の向上。

3 標準化による横展開・事業のスケール

ケミカルリサイクル、鋳山プロセス事業の推進と、新規標準化事業の立ち上げ。

4 成長分野への注力

カーボンニュートラル分野へ先行投資することで、成長を加速。

グリーン

エレクトロニクス

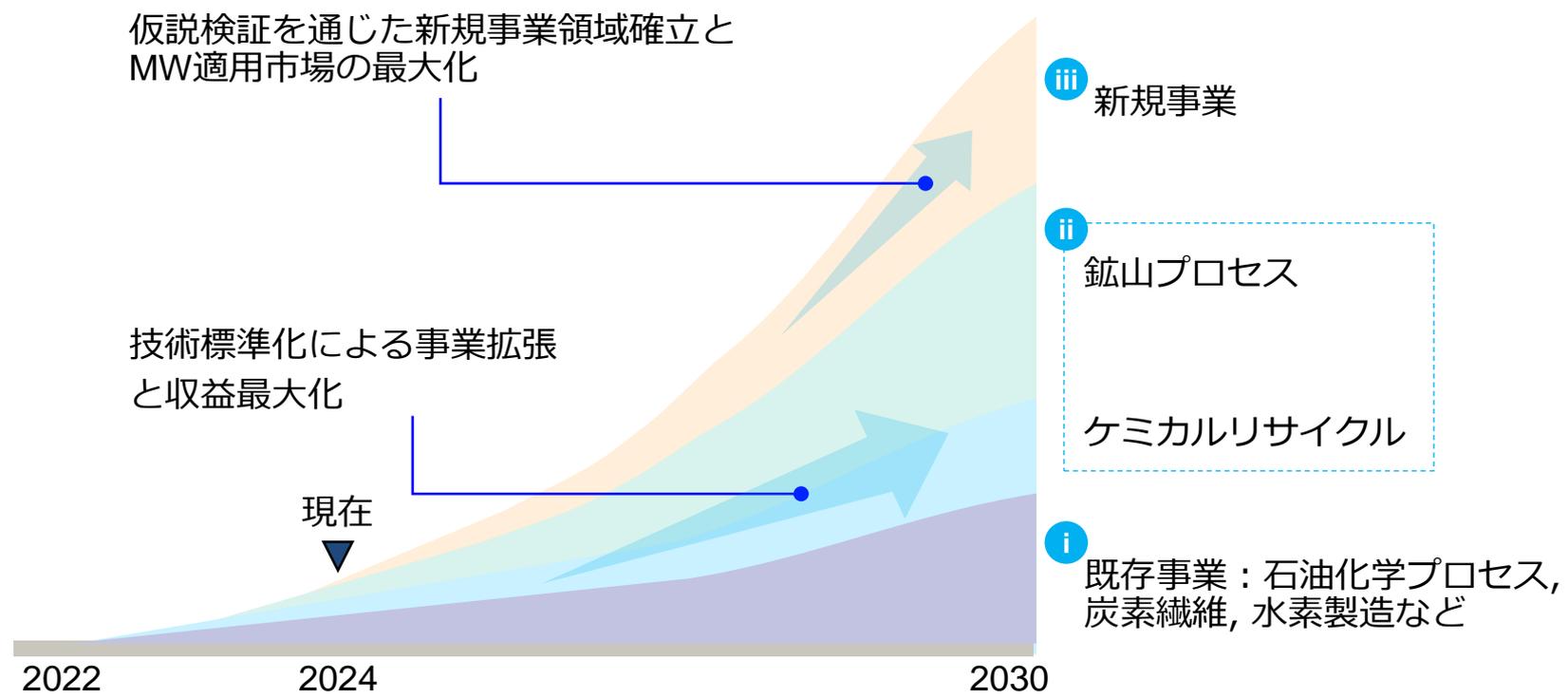
ヘルスケア

インフラの整備

ステージアップ契約数の増加に対応するため、(1)人員、(2)開発インフラ（ラボ+実証拠点）を段階的に補強

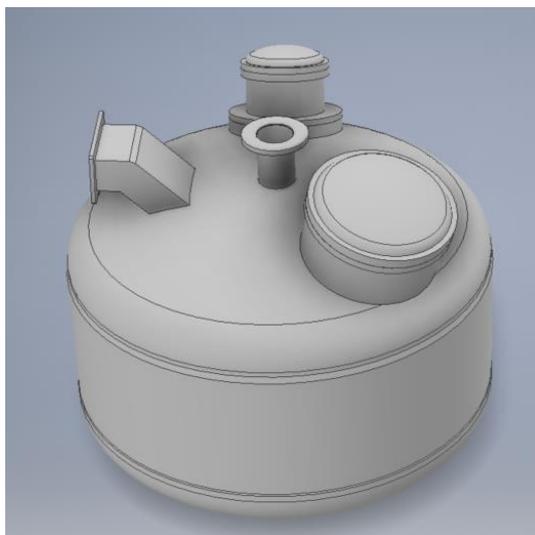
4 グリーン領域における注力事業と成長イメージ

- i 従来から取り組んできた、石油化学プロセス、炭素繊維、水素製造などの案件を提携先と着実にPhase 3（実機導入）に持って行き収益を実現する
- ii またこれまで当社は様々な事業領域において仮説検証を行ってきたが、グリーン領域の中で、現状ではケミカルリサイクル事業と鋳山プロセス事業の技術標準化・実績の蓄積が進んでいる。これらの事業において、横展開を進め、事業の拡張と収益の最大化を目指す
- iii 更に上記事業に加え、複数の新規事業領域確立に向けた仮説検証を同時並行で進める



核融合炉向けベリリウム製造実証におけるパイロット反応器の設計・製作を受注（MiRESSO）

- 2024年7月、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（以下、QST）の認定ベンチャー企業であるMiRESSOより、同社が進めるベリリウム製造実証におけるマイクロ波加熱反応器パイロット機の設計及び製造を受注
 - ベリリウムは核融合炉実現に向けて不可欠な金属
 - ベリリウム鉱石の溶解工程において、大量のエネルギーが消費され、CO₂も排出されるという課題があった
- 2021年より、QSTと当社は省エネ・CO₂削減を可能とする低温精製技術の共同研究を実施し、溶解が困難なベリリウムの実鉱石ベリルを溶解することに成功
- MiRESSOは、上記の低温精製技術の実証及びその社会実装におけるベリリウム製造実証を推進



マイクロ波加熱反応器パイロット機のイメージ図

鉍石製錬用回転炉床炉の設計及び製造に関する戦略的提携（中外炉工業）

- 2024年9月、日本を代表する工業炉メーカーである中外炉工業と戦略提携を実施し、**鉍石の製錬を目的とする革新的な回転炉床炉の設計・製造を推進**すると発表
 - 鉍石の還元やダスト処理工程等には、ロータリーキルンなどが主流技術として用いられているが、化石燃料の使用により大量のCO₂が排出されることが課題となっていた
 - そこで当社は、省スペースやハンドリングのしやすさなどに特徴のある回転炉床炉に着目し、工業炉及び回転炉床炉に豊富な知見を有する中外炉工業とともに、上記課題解決に向けたマイクロ波回転炉床炉の設計・製造に取り組むことにした



Chugai Ro

End of Document



Microwave **Chemical**

**Make Wave,
Make World.**

世界が知らない世界をつくれ